

## 薬剤師のための糖尿病患者の継続的薬学管理のための災害対応のてびき

一般社団法人 日本くすりと糖尿病学会

### 1. はじめに

近年、地震や津波以外にも大雨、台風がもたらす水害などの激甚な災害がしばしば各地で発生している。さらに新型コロナウイルス感染症のパンデミックを経験し、消毒用アルコールが不足するなどの通常とは異なる医療体制において、本来求められる糖尿病治療における薬学管理の継続の難しさに直面した。また、令和元年に改正医薬品医療機器等法が公布され、特に薬剤師の一元的・薬学的継続管理などが強く求められるようになった。

そこで、糖尿病患者の継続的薬学管理に焦点を当て、災害時、非常時の医療体制の中で糖尿病薬物治療に従事する薬剤師には、どのような対応が望まれるのか、またそのために日頃からどのような準備が求められるのかなどを列挙した「てびき」を作成した。有事の際、臨機応変にかつ即時性を持って患者支援ができるよう活用いただきたい。なお、糖尿病医療における役割については、日本糖尿病学会の「糖尿病医療者のための災害時糖尿病診療マニュアル」を参照いただきたい。

### 2. 糖尿病治療において災害時に求められる継続的薬学管理とは

平常時の糖尿病治療において求められる継続的薬学管理については、本学会既出の「てびき」を参考にされたい。災害時の糖尿病診療の目標は、糖尿病に起因した急性合併症の発生を防ぐことにある。平時に安定していた慢性疾患の糖尿病が災害時は急性疾患に急変し、災害時要配慮者である糖尿病患者の生命を脅かしてしまう。ライフラインや物流の途絶による食生活の変化や、薬剤の不足などで生じる低血糖や高血糖での昏睡を予防することはもちろん、感染症や脱水の発症を極力防止することなどをまず念頭に置く。普段使用している内服薬や注射薬を確認し、状況に応じて継続する薬剤とその投与量の調節が求められ、平常時のようにHbA1cを7%未満に保つことが目標ではなく、普段よりやや高めの高血糖値であっても低血糖のリスクの少ない薬剤を選択し、日々供給量に変化する食事に応じた薬剤調節を行う。一方で、持続する高血糖状態を予防し、衛生状態の悪化や免疫力の低下から災害時に増加する肺炎などの感染症のリスクを減らすことも重要である。

患者は平常と異なる食事や生活、さらには災害後の様々なストレス等の影響で、血糖コントロールが平時の様にはいかないことに対して自己嫌悪に陥ることがあるので、精神的なサポートも重要である。

### 3. 災害時における患者の精神的サポート

災害に起因する心理的反応や精神的症状は、心的外傷後ストレス反応（PTSD）のみではなく、孤立、引きこもり、世間からのスティグマ\*などがある。よって、保健医療関係者は、PTSDの診断だけにとらわれずに、災害時に起こりうる多彩な心理変化を考慮し、患者が糖尿病治療を継続できるようその場のニーズに応じた幅広い患者支援を行うことが求められる。